

## 1. 宇佐家畜保健衛生所管内の肉用牛農家に対する取組み事例

宇佐家畜保健衛生所

○（病鑑）坂田 真友子・山中 恒星  
中西 年治・（病鑑）川部 太一

【はじめに】当家保では毎年、家畜衛生、畜産振興、畜産環境保全に係る取組みを重点実施項目と捉え掲げている。令和2年、大分県肉用牛振興計画が策定され、重点事項が示されたことから、家保として取組むべき内容を整理し、関係機関と連携した取組みを実施したので、その概要を報告する。

### 【重点実施項目及び取組み内容】

#### 1. 特定家畜伝染病に対する防疫対策の強化

発生状況や法改正等の周知、飼養衛生管理基準の遵守、万一の発生に備えた初動防疫事前計画書の作成。一方、課題である円滑な初動防疫対応について、次のとおり地域の連携を取り入れた体制作りを検討。Y町の畜産組織と円滑な初動防疫について協議。

「畜産協力隊(仮称)」として若手畜産農家が物資の輸送や作業のオペレーターとして協力できることを確認。現在、事業化に向け、課題等の調整中。

#### 2. 生産性向上対策

肉用牛繁殖農場の生産性向上を目指し繁殖検診を実施。不受胎牛等の早期発見に努め、分娩間隔の短縮を図る。以下、特徴的な2地区について示した。

(1) Y町では、市の診療獣医師、授精師が帯同し、繁殖障害による治療や授精適期を共有し、その場で必要な治療等行うことで空胎期間の短縮につながった。

(2) B市では、Iターンなどによる牧野での新規就農が増加し、現在12放牧場。振興局と協力し、定期的な繁殖検診を行い放牧衛生や繁殖に係る指導を実施。

#### 3. 肥育成績向上対策

枝肉重量や肉質の向上は安定した経営を行うために重要な要素であり、定期的な巡回で血中ビタミンA濃度を指標とした指導に取り組んでいる。令和4年10月開催の第12回全国和牛能力共進会の肉牛区出品候補牛のうち、県内57頭中30頭が管内で飼育。本大会出品を目指し、血液検査等の結果をもとに令和3年度中に3回飼育管理指導を行っている。また、令和2年度の肥育牛巡回では23戸延べ1,459頭について検査及び指導を実施した。そのうち3戸の重点指導農家では枝肉の4-5率が向上した(H26→R2)。

#### 4. 畜産環境保全対策

大規模化が進む中、畜産環境保全は重要な項目である。早い段階で関係機関と一体となり指導することが重要。以下、本年度に解決した事例を紹介。令和3年1月、S農場において放置飼料の悪臭や野生獣による苦情が発生。関係機関と連携し、立入・指導を続けることで7月に改善した。その後は環境問題と合わせ、飼養管理の指導も行っている。

【まとめ】当家保では、重点実施項目に基づき、各地域の特性に合わせて農家指導を行っている。上記取組みにより、農家との関係を新たに築くことができたので、今後も丁寧な指導を行い、管内肉用牛農家の生産性向上に努めたい。